Hunger Zero

ハンガーゼロ (日本国際飢餓対策機構) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。 1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓 っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18ヵ国60



# オーガニック フレーバーティー リニューアルセット

すっきり爽やかな気分になれる フレーバーティー。パッケージが エコロジーの観点から新しくなり

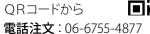
南インド、ケララ州にてオーガ ニック製法で作られた茶葉を用 いたフレーバーティーセットです。 全てティーバッグで 1 パッケージ に 10個ティーバッグが入っていま す。シナモン、ジンジャー、カル ダモン、マサラの4種類各1パッ クずつをまとめて1セット送料込 2.000円です。なお、カフェイン フリーではありません。

お支払い:原則後払いで①か②

①銀行振り込み ②郵便振替 ※送金は必ずキングダムビジネス までお願いいたします。ハンガー ゼロでは一切お受けできません。

#### お申し込み:

(株)キングダムビジネス スマートフォンは右の ORコードから



#### 大阪マラソンの寄付額

今年2月26日に開催されまし た「大阪マラソン 2023」(主催:大 阪府・大阪市他)からのハンガー

ゼロへの寄付額 は、約55万円と ガーゼロを寄付 先団体として出場



された9名のチャリティランナー さん、同ランナーのエントリーの ための寄付集めに協力してくだ さいました皆様、運営応援のボ ランティアさん、協力企業様に 心より御礼申し上げます。

#### 書き損じハガキ、未使用切手で協力

書き損じたハガキ (年賀状も含む)やポ ストに未投函のもの (書き込み、汚れの あるもの、私製八ガ



キは不可)、また消印のない[未 使用切手」がありましたら、大阪 事務所までお送りください。

国内外の通信に用いさせていた だいています。

## ハンガーゼロ海外駐在員短信

●酒井保 (フィリピン)

HOLPFI (ハンズ・オブ・ラブ・フィ リピン)での活動の諸手続きのため に4月17日に一時帰国しました。 酒井慶子も先に帰国しています。

- ●ジェロム・カセバ (コンゴ民主) 6月にコンゴ民主共和国での HOLC (ハンズ·オブ·ラブ·コンゴ) の活動調査などのために現地に入 る予定です。
- 小西小百合 (ボリビア) 国際飢餓対策機構ボリビアでの 活動を続けています。

#### 親善大使の森祐理さんが 6/3 に記念コンサート



ハンガーゼロ親善大使の森祐理さんが、6月3日出午後 2時から茨木市福祉文化会館(大阪府)/オークシアター にて「福音歌手30周年記念スペシャル」を開催します。 当日は①ラジオ番組 「モリユリのこころのメロディ」 公開 収録②感謝コンサートの構成でシンガーソングライター の岩渕まことさんがゲスト出演されます。

#### 【チケット代と入手方法】

前売1,800円(稅込)/当日1,995円(同) お求めはモリユリ公式HP(QRコード) 又は事務所に電話06-4397-3537にて



יע	1	<b>グーの中込み懶 FAXU/2-92U-2133</b>	言
Ë	名		言う後にファオで揖景ー
TE	L)		1
Ì	所	Ŧ	1,
Þί	78	年 月 日 NL394号	一言シール
/	下≣	こから希望されるものをお申し込みください	]    -
		ンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )ロ (1ロ 1,000 円) ②一時募金として 円協力します。	17トレンにお送り

継続募金(JIFH サポーター) として協力します。

チャイルドサポーター (子ども1人毎月 4,000円)の

毎月()口(1口500円)

説明書(申込書)を送ってください。

郵便自動引落し申込書を送って下さい。

その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて 大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせ ていただきます。お電話やウエブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在…5298口

_ ~~ ,	/ <del>-</del> +/	· * =	
<b>金</b>	(十二)	清家引	1
_ / _	IJ 🖂	ハロタバル	ィノ

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.hungerzero.jp eメールアドレス general@jifh.org

※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで

	-	
*****		





大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1

TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155 |-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782 愛 知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCA ビル 6F TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132

〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号 TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216 USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605 TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



わたしから始める、世界が変わる

# 

1分間に17人(内12人が子ども) 1日に2万5,000人が 1年間では約1,000万人が 飢えのために生命を失っています 南学院大学海外研修 ウクライナ難民緊急支援 チャイルド短期サポーター募集 西南学院大学海外研修 「私たちの感じたこと&こぼれ話」 トルコ竪急支援チーム報告

「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。

# 発電機269台ウクライナ GEM倉庫に到着、配布

4月3日、ハンガーゼロのウクライナ緊急支援チームのボ ランティアとしてポーランドとウクライナで活動していただいた 月井サムエルさん (本郷台キリスト教会スタッフ)が、同教会 員の深水典幸さんを伴ってワルシャワ空港に到着。深水さん は当面の間、緊急支援ボランティアとして王さんを手伝います。

空港で王さんと合流し、ワル シャワにある日本食材店に日 本から持参した海苔を届けに いきました。同店では避難民 支援として一年以上、おにぎ りの無料配布を継続していま



す。月井さんはこの活動の応援のために海苔を店主の坂本 さん (写真中央)に届け大変喜ばれたそうです。

その数日後、ウクライナに車で移動、リヴィウに開設さ れた GEM (グローバル・エンパワーメント・ミッション=米 国の物資支援団体)倉庫に行き、ハンガーゼロが調達した 発電機(269台)の納入に立ち会いました。この小・中型 の発電機は、避難民の住宅や孤児院、避難所となってい る学校やキリスト教会などに王さんらが届けていきます。



なおハンガーゼロは、GEM の加盟団体として相互協力の 関係にあることから、納入した発電機の一部は他の支援団 体ルートでも避難民に提供されていきます。

現地での支援物資の配布のためハンガーゼロは、ウクラ イナ支援に取り組んでいる隣国チェコのキリスト教会とも

よい協力関係を続け ています。とくに車 両 (大型ミニバン)や 輸送時のボランティ ア参加で活動を助け ていただいています。 またハンガーゼロも、 日本から運んだカイ



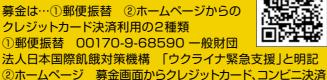
口や医薬品(提供:中京医薬品)、パンの缶詰(同パン・ アキモト)や現地で調達した食料品などをこの教会の活動 を通じて必要とされる人々に着実に届けています。

ハンガーゼロは、これからもウクライナ難民、国外に避 難された方々のために物心両面での支援を継続していきま す。どうぞ応援をよろしくお願いいたします。

# 【ウクライナ緊急支援募金】

がご利用いただけます。

募金は…①郵便振替 ②ホームページからの クレジットカード決済利用の2種類 ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団

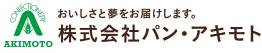






各地に飛んでいきました! 食料が不足している、

皆様から回収された救缶鳥は



パンの缶詰 since 1995 〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋295-4 パン・アキモト TEL 0287-65-3351





フィリピン・ビコール&スラ地区

# 2025年の支援卒業を喜びをもって迎えるために



2013年、チャイルドサポーターがフィリピンのビコール 地区スラとマトノグの2地域における支援活動を開始してか らはや10年が経過しました。

チャイルドサポーターはこれまで、一人でも多くの子ども たちが学校に通い、栄養あるものを食べ、自分の将来に 希望を持てるようにと支援を続けてきました。中でも、「自 分にはできない」「貧しいから仕方がない」という負の価値 観を変えることに最も力を注ぎました。これまで多くのサ ポーターさんに支えられたことを心から感謝します。

赤ちゃんが立派な青年になるように、この10年間でコミュ ニティは以前とは比べることが出来ないほど成長しました。 地区に暮らす人々に芽生えた新たな価値観は、貧困のスパ イラル (連鎖)を断ち切り、次の世代の希望と成長への意 欲につながっていくことが期待されます。

そんなスラとマトノグも2年後の2025年5月末には、チャ イルドサポーターの手を完全に離れて「卒業」を迎えます。 卒業を迎えることはコミュニティにとって大きな喜びです。 しかし、それを成し遂げるためには、もう少しの期間サポー ターが必要です!ぜひ最後まで応援をお願いします。



# 短期チャイルドサポーター最終募集

23名の子どもたちが待っています ~ご支援の期間は1~2年~

住んでいる地区:スラ、マトノグ

チャイルドの年齢:6~14歳(男子10人、女子13人) ※チャイルドの引っ越し等で短期で支援中止になる場合もあります。

お申し込みはホームページ又は電話にて CS 事務局 Tel: 072-920-2226 で受付中

# ~サポートチャイルドの声~ 「家族のために夢を実現させる」 デニス・パバベロくん

デニスは、マトノグのサポート チャイルドでした。小学校を 卒業した後、貧困と両親の 離婚が原因で、彼は7年生 に進級することができませ んでした。しかし、彼は学 びへの意欲と熱意をもち、働 く学生たちのための Open High

School Progrm に参加しました。これ は毎週土曜日に学校に行き、普通校に通う学生たちと同じ 教科を学ぶプログラムです。

デニスは土曜日に勉強をし、月曜日から金曜日までは売 店や建築現場で仕事をしています。離婚した父親は養育費 を一切支援しないのでデニスともう1人の兄弟が家族を支 えています。デニスには6人の兄弟がいますが、貧困のた めに誰も大学に行くことができませんでした。そのことをデ 二スはとても悲しんでいます。彼はいつの日か家族一人一人 の人生が変えられることを固く信じています。この希望が 彼の学ぶ意欲を突き動かしています。

デニスは FHが Open High School Program で勉強をサ ポートしてくれたことを感謝しています。そして仕事との両 立で辛い時はサポーターさんからの手紙が何よりも励みに なったと話してくれました。

「今は毎日が大変でも、いつの日かぼくは警察官になる 夢を実現させる。そうすれば家族を貧しさから解放してあ げられるからし。

# Supporter Supporter が目指すもの

コミュニティにおいて収入改善をはじめ健康、衛生な ど様々な分野にわたるトレーニングを行い、人々の主体 的な参加によって知識や改善を手にしていきます。

活動の中では、全ての人の存在は尊く、誰にも可能 性があることを保護者や子どもたちに伝え、彼らに期待 してそして励まし続けることを大切にしています。支援 を受けて一人ひとりが変わり、子どもが子どもらしく健 やかに育つことのできる環境を目指しています。

FH= 国際飢餓対策機構

# 西南学院大学

ボランティアセンター(福岡市) が、2023年2月24日~3月2日 の日程で、FH フィリピンの活



動地ブラカン州ナボタスとマラボンで海外研 修を行い、ハンガーゼロがサポートしました。 参加された12名の学生さんの体験記が届きま したので、紹介させて頂きます。











# 私にできることは何か

ロボとみ いずみ 重富 泉 人間科学部児童教育学科

私は4年間、ボランティ アのサークルに所属してい たのですが、新型コロナウ イルスの影響により、私が 望んでいた対面でボラン ティアを進めることが厳し い状況でした。そこで、実 際に現地を訪れて、相手の



反応を見ながらボランティアができる本企画に興味を持ち、応募 しました。

実際に行ってみると、「私は貧困に苦しむ子どもや現地の方にが募るばかりでした。 会って少しでも役に立ちたいと考えて参加したはずなのに、食べ物 が十分に与えられていない子どもたちがいる目の前で食べきれな いご飯を残してしまったりして、活動目的を見いだせずにいる一方 で、現地の方の温かさに毎日触れる日々で、本当に現地の方のた めになっているのだろうか」といった葛藤がありました。

しかし、そんな中で、西南タイム(※1日の振りかえり)の時間に、 「私たちが現地を訪れた、そのこと自体が子どもたちに希望を与え ている という言葉を聞き、心に深く響きました。貧困家庭の子 どもたちは、それがあたりまえと思って過ごしていて支援を必要と していないこともあります。それでも、私たちが訪れることで、世 界はもっと広くていろんな選択肢があるということや、生きる希望 を与えることができると学ぶことができました。その言葉に救われ たと同時に、私にできることはそれまでだろうかと考えるきっかけ になりました。私にできることを考えた結果、日本に帰ってからも 貧困について学び続け、日本でできることを見つけようと思うよう になりました。フィリピンでは、貧困地域に対する支援が充実して おり、その効果は着実に進んでいました。一方で、日本では、貧 困家庭が存在していてもあまり知られておらず、その支援について を団結させる目には見えない大

高知ペンテコステ教会隣接のクリニック 医療法人オリーブ 循環器内科·内科·老年内科 院長 大川 真理

も全国的に進められていない現状があります。私は4月から小学 校の教師として働くことが決まっていますが、子どもたちが安心し て日々を過ごすことができるように、学校全体や関係機関と連携 してこの課題に取り組んでいきたいと考えています。

# この活動から学んだこと

小畑 **華** 外国語学部外国語学科

特に一番印象に残ってい るのはスラム街への訪問で した。正直私は最初怖かっ たです。「鞄を前に持って、 スマホは出さないように」 という指示があり、不安



スラム街に足を踏み入れ

た途端から、私は現地の人と目を合わせることを拒んでいました。 ですが、すぐにこれは間違いだと気づきどうして自分はここに来た のか、何を学ぶためにフィリピンに来たのかを考え直しました。そ の後の子どもたちとの交流で、涙が出そうになりました。おそらく 私が想像していた貧困地域に住む人々の様子とは違った光景が目 に飛び込んできたからではないのかと思います。このことが自分 の中に存在する「貧困」のイメージを変えるきっかけとなりました。 そして、私たちが勝手に彼らを「貧困」だと決めつけているのかも しれないと感じました。

また、フィリピンの方々の優しさやとにかく素敵な笑顔も非常に 印象に残っています。同時に、「幸せ」についても考えるきっかけと なりました。お金や洋服よりも大切なモノ。忘れがちになってしま いそうな「大切な存在」について自分なりに見つめ直す機会になり ました。さらに私たちの普段の生活にはあまり馴染みがない「宗 教」についても触れることができました。教会という存在は人々の

心の拠り所であると同時に人々 きな力を秘めていると感じまし た。スラム街の訪問、フィリピ ンの一般家庭の体験、小学校 や教会の訪問、FH のスタッフ の方々やフィリピンの方々との 交流。こうした異文化理解やカ ルチャーショックは今後の自分 に繋げられると思っています。

# よく考え学んだ一週間

藤田 凛 法学部法律学科

平凡な大学生活を変え たい、何か自分や他人に とって有意義なことがした い、成長したい、私は大 学生になってからずっとこ のようなことを考えていま した。そんな時に見つけ た海外ボランティアはこん



な私を大きく変えてくれてたくさんの考え方を教えてくれました。

フィリピンの貧困地域は日本とは違って建物が古く、トイレには 便座がない不自由な場所です。そんな場所を見てはじめは私たち が何とかしなければいけない、そう心から思いました。しかしそ んな中で印象的だったのは貧困地域の子どもたちや地域の方々の 温かい笑顔です。確かに経済的には貧困なのかもしれませんが、 彼らは本当に幸せそうで常に笑顔を向けてくれたりたくさん話をし てくれたりしました。

中でも生活体験では鍋敷きの作り方がわからない私に何度も丁 寧に教えてくれたり、完成したら一緒に喜んでくれたりとフィリピ ンの方々のぬくもりが手にとるように伝わってきました。その瞬間、 私はフィリピンの方々の温かさを感じたり日本にはない幸せの形に 出会うことができたと感じました。

しかしそんな幸せそうな様子を見ると同時に、ボランティアに来 たのに結局自分に何ができるのかわからなくなり、どうしようもな く悲しい気持ちにもなりました。今回の活動を通して私が大きく感 じた感情はこの葛藤でした。結局自分は無力なのだなと思い、何 かできることを探したいと思って参加したのに結局何もできていな いことにいら立ちすら覚えました。しかし、これもこのボランティ

アに参加しなければ考えもしないことでしたし、この体験を生かし てこれからの人生で自分にできることを必ず見つけたいと思ってい ます。

# 新しい幸せの形

演田桜音 経済学部国際経済学科(写真®)

今回の活動を通して、 現地の状況を理解すると で初めて客観的に日本を 感じることができた。フィ リピンに行くまでは、初 めて行く海外への期待と、 異国での生活に対する不



安が混在していた。しかし、現地の人々が私たちを温かく迎え入 れ、言葉を理解できず戸惑っている場面では、簡単な英語とジェ スチャーを交え常に笑顔を絶やさず話かけてくれたことで自然と 不安は消えていった。この7日間では、フィリピンの方の思いやり にたくさん触れ、言葉や文化の壁を越えた素晴らしい経験ができ たと感じている。

中でも台ふきや鍋敷きなどで使用するためのマサハン作成をし た生活体験。私たちは、かたどられた布を組み合わせ、ミシンで 縫う工程の手伝いをした。一見、地味で簡単な作業だが、布のか たどりから手動のミシンで製作するまで相当な時間を要する。こ の全工程を一人で作業し、更には一枚2ペン(約5円)で売ると聞き、 私は生活の厳しさに衝撃を受けた。

また、ごみが散乱した道、薄黒く汚れた川など、行く先々で目 の当たりにするフィリピンの環境状況についても驚きがあった。写 真では伝わらない臭いや日常の景色は、現地に行かなければわか らなかったことも多く、母国日本がいかに恵まれている環境である か、改めて知ることができた。当たり前が決してそうではないとい うことも、世界に触れることで違う視点から考えさせられる経験と なった。

> ただ、この環境の中でもフィリピンの人々は自分な りの「幸せの形」をもち、彼らの笑顔には明る い希望すら感じた。心の豊かさは助け合 いの下育まれており、人々の繋がりが幸 せを導いているのだろう。日本では気づ くことができなかった幸せの形を見出

> > FHフィリピンの協力している





# 私たちのこぼれ話

# 日本人以上にお米を食べる!

このゆでら 許斐彩良 外国語学部外国語学科

日本人の食の西洋化はよく取り上げら れる話題ですが、今でも日本人の主食と 言えば米であると思います。しかし、フィ リピンに行くとそれを考え直させられるほ

ど、お米を食べる文化が強いです。ケンタッキーでもチキンとライ スなのが普通であり、お米がついていないと、おやつとしてカウン トされやすくなります。これも、現地に行って初めて知ったことで あり、多様な価値観の存在に気づかされるものでした。

# 子どもたちの夢と現実の落差

てにしりゅうた 小西降太 人間科学部児童教育学科

フィリピンの人気店『ジョリビー』でお 祝いをしてもらうことが、子どもたちの夢 ると聞きました。しかし、この夢を叶 えることができるのは全員ではなく、裕福な家

系や親がそのために頑張って働いていると分かりました。反対に **貧困地域ではジョリビーの廃棄品を食べる現実もありました。** 

## みんなの笑顔で心が温まる

森 綾菜 外国語学部外国語学科

4日目のトンスーヤ小学校でいくつか の教室に入って小学生たちと記念写真を 撮ることがありました。そのとき私は警戒 されちゃうんじゃないかと少し不安な気持ち

だったのですが、みんな積極的に話しかけてくれたり、名前を見 てノートに書き留めてくれたりして私たちを受け入れてくれました。 また写真撮影のときずっと私にくっついていた子がいて、私は何も してないし、会って1分もないぐらいだったにも関わらず、私にくっ ついて笑顔で楽しそうにしていました。とっても心が温まり、嬉し い気持ちになりました。

# 情報の「知」と経験の「知」

ぁゕぉょとゕ 赤尾円香 外国語学部外国語学科

活動中、「自分にできることなんて1つ もないんじゃないか」と数え切れないほど 葛藤した。フィリピンの子どもたちに、「あ なたの夢は何」と尋ねられて答えられなかった。

何の為に大学で学んでいるのかわからなくなっていた。そんな時、 FH のスタッフが私たちに一つのヒントをくれた。それは、"Study Hard"ネットで調べたら簡単に答えが出てくる世の中で、見えな いものを見ようとすることが大切なのだと身をもって感じた。情 報として得た「知」と、経験を通して得た「知」は違う。新しい自 分へと変わりたいのなら、まずは勇気を振り絞って一歩を踏み出 してみること。"Study Hard"を皆さんにも是非共有したい。

# 私も祈りたくなった

大番 島 国際文化学部国際文化学科

旧市街探索の際にマニラ大聖堂を訪れ た。荘厳な教会で建造にも感動したが、そ れよりさらに感動したことがあった。その 教会の中には信者がキャンドルをマリア像 の前に置いて祈ることができる場所があった。

フィリピンの現地の人々がマリアを見つめ一心に祈る姿を見て、私 は涙した。フィリピンは幸福度の高い国として知られている。ど の活動でも、現地の人々はとても陽気に優しく私たちを歓迎して くれた。フィリピンの人々がなぜ朗らかで優しいのかが少しわかっ た気がする。私はキリスト教徒ではないが、祈りたくなった。

# 心のボランティアとして

外国語学部外国語学科

フィリピンは「精神的に豊かな国 | だと 感じましたが、解決すべき問題は沢山あ りました。特に、ストリートチルドレンの問 題です。虐待を受け親元を離れ一人で生活をす

る子ども、兄弟が多く家では十分に食事が摂れないため自ら一人 で暮らす選択をした子ども、理由は様々ですが、今回の研修中に も多くのストリートチルドレンを目にしました。日本で何不自由な く暮らす私には衝撃的な光景でした。今できる私の精一杯は、こ の問題を伝え、彼らを想うこと。心のボランティアだと思います。 何事にも当事者の境遇や気持ちに寄り添うことができる人物にな りたいと強く思います。

# 肌で感じた貧富のギャップ

キのかずま 矢野壱真 法学部法律学科

今回の活動では民泊をすることは叶いま せんでしたが、民泊ではなかった分、貧し さと豊かさの振れ幅を全身で毎日感じるこ とができました。また、いわゆるスラムに住む

貧しい地域の子どもたちと交流した日の夜に、おそらく裕福な子 どもの誕生日パーティーを見かけて、ギャップを肌で感じました。

# 手作りブレスレットは私の宝物

g田 杏 外国語学部外国語学科

小学校を訪問した際に、仲良くなった 女の子に手作りのブレスレスレットをもら いました。その場ですぐ何かお礼をと思い ましたが何も持ち合わせておらず、ただお礼

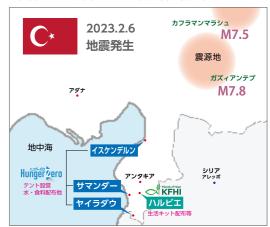
を言うことしかできませんでした。申し訳ない気持ちとそれを私に あげたいと思ってくれた気持ちがただただ嬉しくて心が温かくなり ました。日本に帰った今でもずっと身につけています。子どもたち の笑顔を守りたいと何度でも思わせてくれる、私の宝物です。

# トルコ地震緊急支援デーム報告





ア団体などと連携しながら被災者支援を続けます。



# テント100張を被害甚大の南部の人々に

2月6日の地震発生以来、トルコ・シリア合わせて22 万棟が崩壊、2.000万人以上が被災、死者は56.000人を 越えました。(国連 WHO 推計)私たちが被災地で活動し た3月末でも、家を失った多くの市民が、町のあちこちに できた避難テント村で、あるいは壊れた自宅の庭先で、一 つのテントに一家全員(子どもも含め数人~10人位)で、暮 らしている姿が見られました。

緊急物資の配布の次に必要とされたのは、より長期に安 心して暮らせる大型テントでした。今回私たちは被災地で 既に支援活動を始めていた韓国人ボランティアチーム(イ スタンブール国際学校の先生や生徒たち) に合流し、日本 のみなさんからの募金で100張のテントをトルコ国内で購 入して、被害が大きかったトルコ南部の町、アンタキア近 切へと向かいました。

## 被災でより困難な状況となったクルド人難民

2011年から続くシリア内戦のため、トルコ国内には地震 以前からすでに350万人のシリア、クルド難民が暮らして おり、社会問題となっていました。貧困と合わせ、労働や 教育の機会が少ない難民は、今回の地震でさらに厳しい 生活環境に追いやられ、政府の支援もゆき届かない状況 でした。今回、私たちはそうした難民家庭を一軒一軒廻り、 ビニールシートで作った仮住まいに暮らす方々に、大型の

テントを建てて廻る活 動をしました。

イスケンデルン近郊 のドルトヨル村では、 家は残っているけど余 震が怖くて、今も夜は 外で寝ているというク ルド難民3家族のた



め、3つのテントを日が暮れるまで掛け、建てることがで きました。

またシリア国境にわずか4kmというヤイラダウ村には、 シリア難民キャンプがあり、そこでは難民のための小学校 (コンテナハウス)が地震のあと避難所になったため、子ど



もたちは学ぶことができず困っているとのことでした。そこ で避難者が少しでも学校から移動できるよう、3張のテン トを贈りました。またおもちゃなども配りました。(写真印)

難民キャンプでは子どもたちとしばらく遊ぶ時間もありま したが、キャンプでの長期生活に被災のストレスも加わり、 しわ寄せが小さな子どもたちに行っていることが感じ取れ ました。今回、地震の緊急支援でトルコを訪問しましたが、 貧困・飢餓に直結する「難民問題」という、もう一つ大き な課題を考えさせられました。

緊急支援については、ハンガーゼロのホーム ページにさらに詳しく報告しています。

◀QRコードから入れます。

# 【トルコ地震緊急募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからの クレジットカード決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590

一般財団法人日本国際飢餓対策機構「トルコ地震」と明記 ②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済 がご利用いただけます。